

ゴンペルツ曲線

稲宮 健一

現役の頃、ソフトウェア開発に携わった。三十年も前だったので、最近の最前線のこと
は疎いが、今でも骨格ぐらいは分かる。一般にソフトウェアへの最初の質問はこのソフト
はどのくらい枯れていますから始まる。枯れた花を買う奴はいないが、ソフトウェアの価
値は高度な機能と同時に、確実な動作が保証されて、初めて商品価値が生ずる。即ち、ハ
ングアップ無しが最低の条件である。ソフトウェアの欠陥であるバグ（虫）は目で見えな
いが、枯れたソフトを作るには試行錯誤でハングアップが生ずる度に修正を繰り返す地味
な虫出が十分行われ、初めて枯れてた状態になり商品価値が出る。

さて、現在マイナンバーカードの多目的な活用の試みがなれされている。その一つが話
題になっている健康保険、銀行口座への紐づけであるが、この機能に多くの齟齬がある
のこと。その機能の実現のためには色々な条件下でシステム全体の疑似作業が実行される
が、この中には多数のオペレータによる手作業も含まれる。このシステムが枯れるまで、
まだ相当の時間が掛るようだ。

一般に枯れ具合を示す指標としてゴンペルツ曲線が用いられる。この曲線は横軸に時間、
縦軸にバグの個数（片対数）を書き、そのソフトの枯れ具合をグラフ上で判定できる。初
めのうちは汎用性の高い使用条件を設定するので、初歩的なバグが多く検出しやすい。し
かし、稀な使用条件下でも内在するバグを取り除かなければ商品にならない。バグの検出
頻度を基に枯れ具合を判定する。検出頻度が低くなっても、中々枯れた領域に達成できな
いのがソフトを含むシステムの特性である。身近なところで、直ぐにでも紙の健康保険証
を廃止し、マイナンバーに変えるなど愚策である。急ぐとシステム・バグで必ず困る人が
出る。両者を併存させ、枯れ具合をゴンペルツ曲線より判断して移行しないと混乱が起き
る。普及を急ぐなら、早く切り替えた人には何らのインセンティブを与えると普及が早ま
る。